

CLAIR REPORT No. 362

美術館・大学を核とした地域再生

-MASS MoCA の事例にみる文化教育施設のネットワーク-

Clair Report No. 362 (June 30 , 2011)

(財)自治体国際化協会 ニューヨーク事務所



自治体国際化協会

「CLAIR REPORT」の発刊について

当協会では、調査事業の一環として、海外各地域の地方行財政事情、開発事例等、様々な領域にわたる海外の情報を分野別にまとめた調査誌「CLAIR REPORT」シリーズを刊行しております。

このシリーズは、地方自治行政の参考に資するため、関係の方々に地方行財政に係わる様々な海外の情報を紹介することを目的としております。

内容につきましては、今後とも一層の改善を重ねてまいりたいと存じますので、御叱責を賜れば幸いに存じます。

本誌からの無断転載はご遠慮ください。

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麴町 1-7 相互半蔵門ビル
(財)自治体国際化協会 総務部 企画調査課

TEL: 03-5213-1722

FAX: 03-5213-1741

E-Mail: webmaster@clair.or.jp

目 次

はじめに	i
概要	ii
序章 ノースアダムス市の概要	1
第1章 マサチューセッツ現代美術館誕生と美術館が地域にもたらした効果	3
1 マサチューセッツ現代美術館誕生にいたるまでの経緯	3
2 MASS MoCA の概要	4
3 MASS MoCA によって地域にもたらされた変化	7
(1) 経済効果	8
(2) MASS MoCA のネットワーク機能	9
(3) コミュニティの変化	11
第2章 MASS MoCA と地域の大学の連携	15
1 ウィリアムズ・カレッジとの連携	15
2 マサチューセッツ・カレッジ・オブ・リベラルアーツとの連携	17
第3章 ノースアダムス市再生の事例から学べること	20
1 文化教育施設・団体間の実質的な連携・協力の構築	20
2 より自由な施設使用による人の交流空間の提供	21
3 文化教育施設としての存在意義・地域で果たしうる役割の認識と公表	22
4 大学と大学・大学と地域の他の文化教育施設・団体との連携の促進	22
5 地域資産の活用	23
おわりに	24
参考文献・ウェブサイト	25

はじめに

政府、地方自治体の厳しい財政状況が続く中、日本国内の公立美術館、公立大学は、厳しい運営を迫られている。美術館では、新規収蔵作品取得の予算はなく、より少ない予算と人員で、入館者を増やすために苦心している。大学は、国立・公立・私立を問わず、近年、その大学が所在する地域・地元への地域貢献が、教育・研究と並ぶ大きな使命となってきた。美術館等の文化教育施設も大学も、いかに目に見える形で、自分たちの存在意義をアピールできるのかが重要な課題になっている。

美術館と大学が、街の再生に重要な役割を果たしている興味深い事例を、アメリカ・マサチューセッツ州西部にあるノースアダムス市にみることができる。ノースアダムス市は、街の一大雇用主であった企業撤退後の地域衰退を、歴史的建造物である工場建物を現代アートの美術館に転換したことをきっかけに、見事に地域再生を果たしたことで注目を集めた。この現代美術館の開館には、ノースアダムス市及び近隣にある大学が重要な役割を果たしており、美術館開館後も両者の協力関係は継続されている。

本レポートでは、美術館開館がきっかけになったノースアダムス市の地域再生の事例を紹介し、美術館・大学等の文化教育施設が、地域において果たしうる役割、運営の在り方について考えてみたい。

(財) 自治体国際化協会 ニューヨーク事務所長

概要

序章 ノースアダムス市の概要

序章では現代美術館の開館をきっかけに見事に地域再生を果たしたマサチューセッツ州西部の小都市ノースアダムス市の概要と 19 世紀後半から 1980 年代後半にかけて市がたどった歴史的経緯を簡潔に紹介する。

第 1 章 マサチューセッツ現代美術館誕生と美術館がもたらした効果

第 1 章では、ノースアダムス市にマサチューセッツ現代美術館(Massachusetts Museum of Contemporary Art / MASS MoCA) が開館するにいたった経緯とその概要を説明し、同美術館の開館によってノースアダムス市にもたらされた効果・変化について、地元の研究機関が実施した学術調査結果をもとに、①経済的効果、②MASS MoCA のネットワーク機能、③コミュニティの変化、の 3 つの観点から紹介する。

第 2 章 MASS MoCA と地域の大学との連携

ノースアダムス市の再生には、ノースアダムス及び近隣地域に所在する 2 つの大学（ウィリアムズ・カレッジ、マサチューセッツ・カレッジ・オブ・リベラルアーツ）が、MASS MoCA とともに大きな役割を果たしている。第 2 章では、これら 2 つの大学が、MASS MoCA と連携してどのような取り組みを実施しているのかを具体的に紹介する。

第 3 章 ノースアダムス再生の事例から学べること

第 3 章では、前 2 章で紹介したノースアダムス再生における MASS MoCA と地元 2 大学が果たした役割の事例から、日本においてどのようなことが参考となりうるかについて、①文化教育施設・団体間の実質的な連携・協力の構築、②より自由な施設使用による人の交流空間の提供、③文化教育施設としての存在意義・地域で果たしうる役割の認識と公表、④大学と大学・大学と地域の他の文化教育施設・団体との連携の促進、⑤地域資産の活用、の 5 つのポイントから考察する。

序章 ノースアダムス市の概要

ノースアダムス市は、アメリカ合衆国東部マサチューセッツ州の西部、バークシャー・カウンティ¹ (Berkshire County) の北部に位置し、面積 53.3 平方キロメートル、人口 14,681 人²(2000 年 Census)で、マサチューセッツ州内の市としては人口が最も少ない市である。1737 年に入植が開始され、1878 年に正式に市となった。



マサチューセッツ州位置図



バークシャー・カウンティ、ノースアダムス市位置図

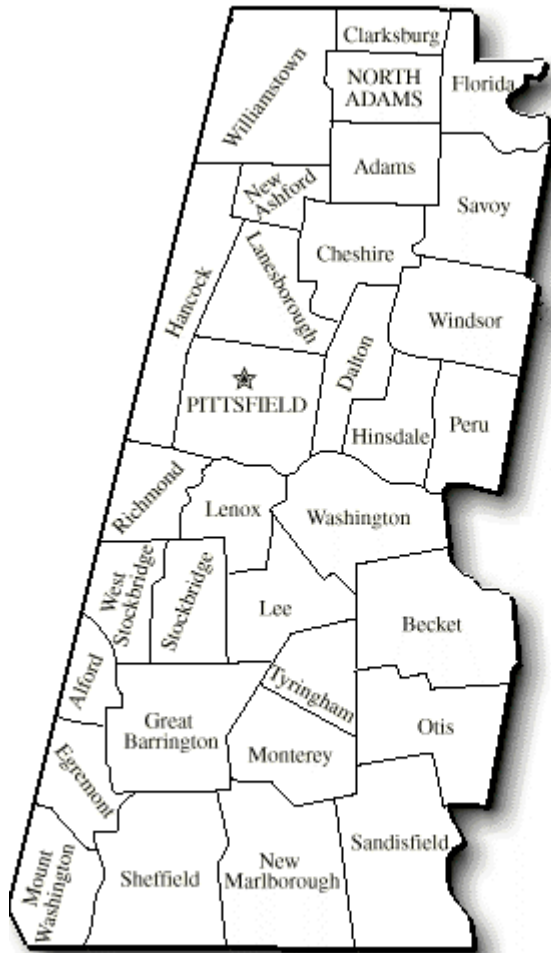
ノースアダムス市は、長い間、中心部のマーシャルストリートに面する広大な工場を所有する企業の企業城下町であった。1862 年から 1942 年までは衣料品メーカーの Arnold Print Work が、1942 年から 1985 年までは、テレビ・ラジオの蓄電池の製造を中心とする Sprague Electric Company (SEC) が人々の生活を支えた。1966 年には、人口 18,000 人のうち 4,137 人が SEC に雇用されていた。しかし、1980 年代半ばに入ると、海外の低価格製品との競争が激化し、SEC の売り上げは下落、1985 年 SEC は工場を閉鎖した。

SEC の撤退・工場閉鎖により、ノースアダムス市は大雇用主を失い、街には 4,000 人の失業者があふれた。この同じ時期、マサチューセッツ州は空前の好景気に沸いており、州全体の失業率は 2.2 パーセントであった。しかし、ノースアダムス市のある州西部は、「マサチューセッツの奇跡 (“Massachusetts Miracle”）」と言われた好景気

¹ マサチューセッツ州の西端に位置するカウンティ (行政区分の一つ)。2000 年にカウンティ政府の機能は州政府が行うこととされ、カウンティ政府を有しない歴史的・地理的な区域のみを示すカウンティとして存在している。同様のカウンティはマサチューセッツ州内に他に 6 つある。カウンティとは、州の政策・事業・役務を執行するために設定された主要な地方統治単位。

² 2010 年に実施された Census 調査では、人口は 13,000 人台に減少している見込み。

の恩恵を受けることはなく、同市は工場閉鎖以降 1988 年までに、失業率は 20 パーセント、住民の 30 パーセントが公的補助を受けて生活するという窮状に見舞われた。



バークシャー・カウンティ内の自治体 (www. mass-doc.com/より)

第1章 マサチューセッツ現代美術館誕生と美術館が地域にもたらした効果³

1 マサチューセッツ現代美術館誕生に至るまでの経緯

SEC 工場閉鎖の翌年の 1986 年、ノースアダムス市に隣接するウィリアムズタウン町⁴に所在するウィリアムズ・カレッジ美術館(Williams College Museum of Art, WCMA)のスタッフが、美術館の既存スペースに入りきらない現代アート作品の展示スペースを探してノースアダムス市を訪問した⁵。

当時のマサチューセッツ州知事のデュカキス知事から、ノースアダムス市の経済対策特別チームの指揮をとるよう依頼を受けた地元の弁護士とノースアダムス市長は、WCMA のスタッフに、13 エーカー(52,611 平方キロメートル)、27 の建物で構成される SEC 工場を紹介した。

工場建物を見学した WCMA スタッフは、建物の持つ美的で多様性に富む豊かな空間が現代アートの展示に適していること、工場建物の建築物としての価値を認識した。そして、工場建物を文化の拠点に転換し、ただ世界最大級の現代美術館をつくるだけでなく、ノースアダムス市を地域最高レベルの文化的・教育的組織と結びつけようという提案を行い、ここにマサチューセッツ現代美術館(Massachusetts Museum of Contemporary Art/通称 MASS MoCA) プロジェクトが誕生することとなった。その後、1999 年 5 月の MASS MoCA 開館に至るまでには、以下のような経過を経ている。

年	主な動き
1987	地元のビジネス界、政治家から成る協議会が設立され、工場建物の歴史的・文化的重要性と美術館による経済活性化の可能性を基に、マサチューセッツ州政府に MASS MoCA プロジェクトの支援を要請。地域の復興を願う住民は、このプロジェクトを強く支持し、住民 1 万人が州政府への陳情書に署名。
1988	マサチューセッツ州政府が、美術館建設のための 3,500 万ドルの公債発行を承認し、工場建物の美術館転換を開始。 その後間もなく、リーダーであった WCMA のトマス・クレンス氏が、ニューヨーク市のグッゲンハイム美術館の館長に任命され、プロジェクトから去る。

³ 執筆にあたっては、*MASS MoCA: From Mill to Museum*, (MASS MoCA Publications, 2000); *“Mill Town, Factory Town, Cultural Economic Engine: North Adams in Context”*, C3D Report NA1, 2006 を参考にした。

⁴ バークシャー・カウンティの北西端に位置し、ノースアダムス市に隣接する町。Census 2000 のデータでは人口 8,424 人。

⁵ この訪問者の中には、後のグッゲンハイム美術館長となるトマス・クレンス(Thomas Krens)氏と、現在の MASS MoCA 館長であるジョセフ・トンプソン(Joseph Thompson)氏が含まれていた。

1990	プロジェクトを強く支持していた民主党デュカキス知事の大統領選挙出馬が失敗。かわって共和党のウェルド知事が就任。
1991 ～	ウェルド知事、MASS MoCA への拠出金を凍結し、前知事が MASS MoCA のデザイン・計画費用として拠出した 688,000 ドルを返済するよう要求。この頃、好景気にわいた「マサチューセッツの奇跡」が終わり、州全体が 2 ケタのインフレと高失業率に見舞われる。また、同じ時期、極右の上院議員が全米芸術基金(National Endowment for the Arts)の廃止を試みるなど、現代アートにとってはナチスドイツ以来の暗黒の時代となり、MASS MoCA プロジェクトも批判の的となる。 苦境の中、教育・文化ベースの観光、小規模ビジネス開発に地域の新たな活路を見出そうとしたノースアダムス市長は、地元選出の連邦議会議員とともにウェルド知事に MASS MoCA 存続を要望。これに応じて、知事は自己資金での MASS MoCA の存続を認めると同時に、MASS MoCA プロジェクトに対する地元の支持を証明するよう要請。
1993	ビジュアルアート、公演芸術（パフォーミング・アート、演劇、音楽、舞踏など）、メディア・アートの学際的な拠点とするという新しい MASS MoCA プラン発表。
1995	ノースアダムス市、地元住民・企業から 800 万ドルの寄付金と工場建物及び敷地の寄付を獲得。MASS MoCA の新しい構想と、地元ノースアダムス市住民のプロジェクトへの絶大な支持を受け、ウェルド知事、MASS MoCA の第一次建設資金 1,800 万ドルの拠出を承認。
1999.5	MASS MoCA 開館

1990 年代前半の MASS MoCA プロジェクトの危機を乗り越えることができたのは、ノースアダムス市長の強い信念と、トマス・クレンス氏の後を継いでプロジェクトのリーダーとなったジョセフ・トンプソン氏（現 MASS MoCA 館長）の無給期間も含めた献身的な働きの賜物であった。

2 MASS MoCA の概要

MASS MoCA の施設概要等について、同館のウェブサイトでは以下のように紹介されている。

(1) 特長

MASS MoCA は、アメリカ国内最大の現代美術館である。MASS MoCA は、斬新なビジュアルアート・公演芸術、伝統的なアートの分類に収まりきれない作品の創作及び展示・発表の場である。加えて、MASS MoCA は、現代アート、アーティストによ

る実験、組織間の協力のための実験場として機能し、来館者に創作過程の舞台裏を見てもらうことを可能にしている。

(2) 敷地・施設

19世紀に建設された工場の建物⁶を改装した13エーカーの敷地で、ノースアダムス市中心部にある事業所敷地面積全体の約3分の1を占める。

最新のデジタル、光ファイバーを用いた多目的に使える豊富な空間と新しいメディア技術を組み合わせることにより、MASS MoCAは、ほかの場所では見ることができない作品の創作を可能にした。これらの施設は、現代アートの領域を拡大し、かつ再定義する実験場として機能している。

(3) 建設経費

3,140万ドル（300万ドルの不動産寄付と400万ドルの環境工学的事前調査を含む）

(4) 財源

マサチューセッツ州からの建設補助金 2,200万ドル

個人からの建設支援金 940万ドル

展示プログラム及び開館準備のための個人寄付 560万ドル

展示会及び美術館運営のコストは、入館料収入及び寄付金により賄われている。

(5) 運営パートナー

- クラーク美術館⁷ (Sterling & Francine Clark Art Institute, Williamstown, MA)
- ジェイコブズ・ピロー・ダンスフェスティバル⁸ (Jacob's Pillow Dance Festival, Becket, MA)
- ウィリアムズ・カレッジ美術館 (Williams College Museum of Art, Williamstown, MA)
- ウィリアムズタウン・シアター・フェスティバル⁹ (Williamstown Theater Festival, Williamstown, MA)

⁶ MASS MoCAの建物は、美術館に転用される前から内務省国立公園局が管理する National Register of Historic Places に登録されている。

⁷ 美術品収集家であったロバート・スターリング(Robert Sterling)、フランシン(Francine)夫妻のコレクションをもとに1955年、ウィリアムズタウン町に開設された美術館。ルノワールに代表されるフランス印象派、イギリス、アメリカの銀製品のコレクションが有名。

<http://www.clarkart.edu/>

⁸ バークシャー・カウンティ中部ベケット(Becket)にあるジェイコブズ・ピローと呼ばれる歴史的建造物を拠点に毎年夏に開催される、全米で最も歴史ある国際ダンスフェスティバル。

<http://www.jacobspillow.org/>

⁹ ウィリアムズ・カレッジのキャンパスを会場として開催される夏の演劇祭。

<http://www.wtfestival.org/>

- ノーマン・ロックウェル美術館¹⁰ (Norman Rockwell Museum, Stockbridge, MA)
- フィラデルフィア美術館¹¹ (Philadelphia Museum of Art, Philadelphia, PA)
- バング・オン・ア・カン¹²(Bang on a Can , New York, NY)
- ウィリアムズタウン・ジャズフェスティバル (Williamstown, Jazz Festival, Williamstown, MA)

(6) 商業テナント

MASS MoCA は、コミュニケーション、ニューメディア産業のテナントのために 6 万平方フィート (約 5,574 平方メートル) のスペースを提供し、アーティストと革新的なビジネスの協力を促進している。



マサチューセッツ現代美術館 (MASS MoCA)

¹⁰ アメリカの画家・イラストレーター、ノーマン・ロックウェル(Norman Percevel Rockwell, 1894-1978)が、晩年の 25 年を過ごしたストックブリッジ(Stockbridge)にある美術館。ロックウェルの作品 570 点以上を所有する。 <http://www.nrm.org/>

¹¹ ペンシルヴァニア州フィラデルフィアにある全米でも最大規模の美術館。アメリカ映画「ロッキー」シリーズに登場したことで有名。 <http://www.philamuseum.org/>

¹² ニューヨーク市を拠点として活動する現代音楽の団体。1987 年創設。2002 年から MASS MoCA との共催により、若手作曲家・演奏家のための夏の音楽祭 Summer Institute of Music を開催している。 <http://bangonacan.org/>

3 MASS MoCA によって地域にもたらされた変化

MASS MoCA の開館をきっかけに、ノースアダムス市には年間 10 万人以上（市人口の 10 倍）の多くの観光客が訪れるようになり、新たなホテル、レストランの開業など、次第に地元は活気を取り戻していった。また、MASS MoCA は観光客のみならず、多くのアーティストを地域に呼び込んだ。ノースアダムス市を含むバークシャー地方は、MASS MoCA 以外にも多くの優れた美術館・文化施設があり、演劇、ダンス、クラシック音楽¹³のフェスティバル、公演が多数開催される文化的に豊かな地域である。また、自然環境にも恵まれており、こうした文化・自然両面で恵まれた環境と、ノースアダムス市の小さなコミュニティが持つ街の雰囲気惹かれて街に定住するアーティストもでてきた。企業城下町だったノースアダムス市には、MASS MoCA に生まれ変わった工場建物以外にも、19 世紀から 20 世紀にかけて建設された工場建物がいくつかあり、1990 年以降、これらの利用されるあてのなかった工場建物は次第にアーティストの工房兼住居として生まれ変わっていった¹⁴。



工場からアーティスト・ロフトに生まれ変わった Eclipse Mill

¹³ ボストン交響楽団の夏のホームタウンとなるタングルウッド(Tanglewood)の音楽祭が有名。

¹⁴ ノースアダムスのアーティスト・ロフトとしては Eclipse Mill (<http://www.eclipsemill.com>), Beaver Mill, Winsor Mill などがある。

MASS MoCA と地域に定住したアーティストは、ホテル、レストラン等の観光産業に直結したビジネスのみならず、IT を活用した小規模ビジネス等、次第に地元の他業種の事業者をも活性化させていった。こうして、ノースアダムス市は、街の一大雇用主を失った後の深刻な地域の沈滞から抜け出し、パークシャー地方の人気の観光地へ、アートを中核とする文化とスモールビジネスの街へと見事に変身を遂げたのである。

MASS MoCA の開館が地域に実際にどのような効果・変化をもたらしたのかについて、2004 年にウィリアムカレッジに設立された The Center for Creative Community Development (C³D) が、いくつかの学術的調査を行い、報告書を作成している。以下、3つの項目についてその概要を紹介する。

(1) 経済効果

MASS MoCA の開館に伴う経済効果について、C³D が 2006 年にまとめたレポート”Culture and Revitalization: The Economic Effects of MASS MoCA on its Community (文化と復興—MASS MoCA が地域にもたらした経済効果)”によると、次のように報告されている。

- ① 2002 年、MASS MoCA は 12 万人の来館者があり、そのうちの 79 パーセント（約 94,000 人）はパークシャー・カウンティ外からの訪問者であった¹⁵。
- ② 2002 年、地域外からの観光客がもたらす効果も含め、MASS MoCA の存在は総額 1,420 万ドルの経済成長をノースアダムス市及び周辺地域にもたらした。
- ③ MASS MoCA 開館前の 1988 年、ノースアダムス市の年間給与総額は 1 億 3,100 万ドルであった。それが開館 4 年後の 2001 年には 1 億 5,500 万ドルに上昇し、実質 2,400 万ドル以上の増加となっている。
- ④ MASS MoCA 自体は免税団体であるが、開館後毎年 220 万ドルの政府歳入の増加をもたらしている。
- ⑤ MASS MoCA に隣接する不動産の価値は、11,700 ドル上昇した。（2004 年時点）
- ⑥ MASS MoCA は、ノースアダムス市の住宅用不動産価値を約 1,400 万ドル上昇させた。（2004 年の時価による）
- ⑦ ノースアダムス市には、年あたりほぼ 20 万ドルの追加的不動産税収入がもたらされた。Holiday Inn, The Porches Inn¹⁶の 2 つの宿泊施設開設のため、1,100 万ドルの投資が行われた。
- ⑧ MASS MoCA は、カウンティ全体で約 200 の新規雇用を創出した。

¹⁵ 戦後最大の世界同時不況といわれるリーマンショックが起こった 2008 年以降も、MASS MoCA には毎年約 10 万人の入館者があり、このうち 8 万 5 千人がカウンティ外からの来館者となっている。

¹⁶ MASS MoCA の川向いにある、1890 年代に建設された 6 棟のかつての工場労働者の住宅建物を小規模なレトロ調の宿泊施設に改装したホテル。ノースアダムスを訪問する観光客の人気の宿泊施設となっている。Historic Hotels of America の登録ホテル。http://porches.com/

- ⑨ MASS MoCA 開館によって創出された雇用は、レストラン、小規模ビジネス、教育、医療を含む多様な部門に及んでいる。ノースアダムス市の平均給与が上昇していることから、新規の雇用は、低賃金・低技術の職ではないことを証明している。



The Porches Inn

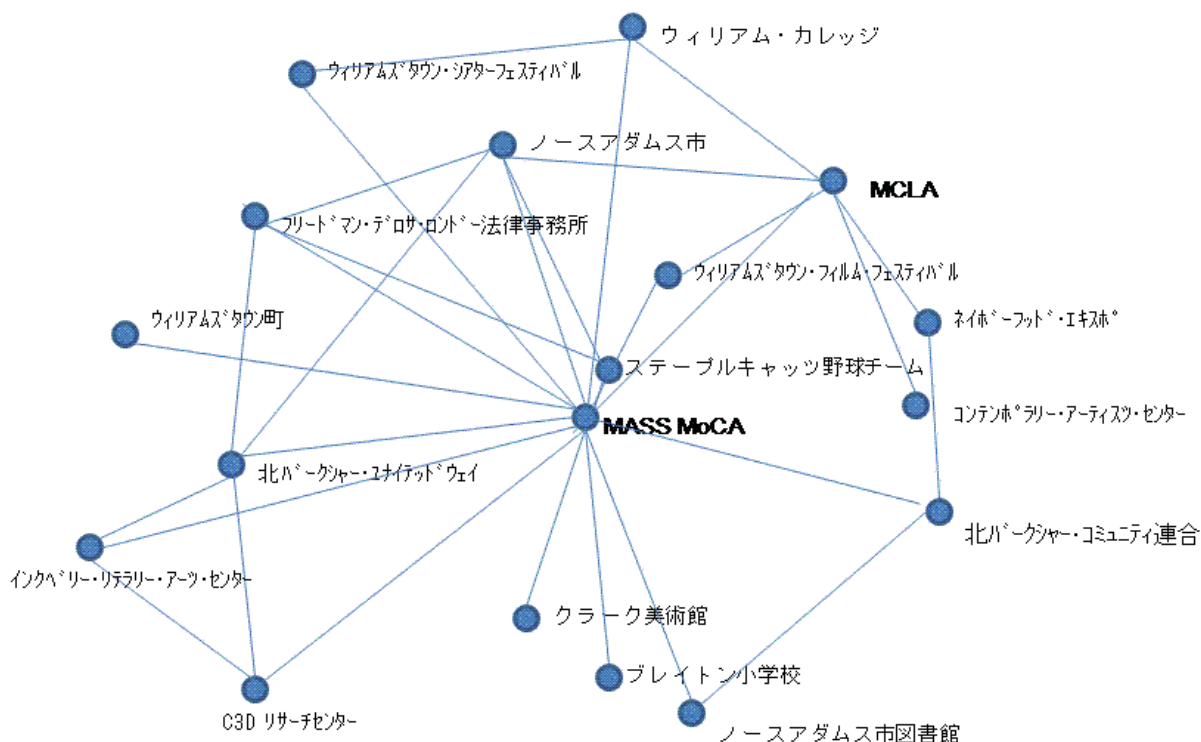
(2) MASS MoCA のネットワーク機能

MASS MoCA が地元にもたらした経済効果と変化に加え、MASS MoCA 自身が地域の行政・教育・文化団体・施設間の連携を促す役割を果たしていることについても社会学的に検証されている。C³D が 2007 年に作成した “Network Analysis and the Social Impact of Cultural Arts Organizations (ネットワーク分析と文化芸術団体の社会的影響力)” によると、以下のように報告されている。

MASS MoCA のスタッフ、役員、ボランティア総数 140 人のうち、42 人が地域の他の行政・教育・文化団体 17 団体（地元の学校、図書館、大学、福祉、スポーツ団体）の役員になる等の「直接」の人的関係を有し、地域の各種団体・施設と MASS MoCA を、また他団体・施設同士を連携させる「連合形成役(coalition builder)」としての役割を担っている。また、その結果として、ノースアダムス市とウィリアムズタウン町の関係も強化されている。

	団体名	区分	関係人数
1	ブレイトン小学校 (Brayton Elementary School)	教育	1
2	センター・フォー・クリエイティブ・コミュニティ・デベロプメント Center for Creative Community Development (C ³ D)	教育	1
3	ノースアダムス市 (City of North Adams)	行政	2
4	クラーク美術館 (Clark Art Museum)	文化	1
5	コンテンポラリー・アーティスト・センター (Contemporary Artists Center)	文化	2
6	フリードマン・デロサ・ロンドー法律事務所 (Freedman, DeRosa & Rondeau Law Firm)	専門職	1
7	インクベリー・リテラリー・アーツ・センター (Inkberry literary arts center)	文化	1
8	マサチューセッツ・カレッジ・オブ・リベラルアーツ (Massachusetts College of Liberal Arts / MCLA)	教育	5 以上
9	北バークシャー・コミュニティ連合 (Northern Berkshire Community Coalition)	福祉	4
10	北バークシャー・ユナイテッド・ウェイ (Northern Berkshire United Way)	福祉	2
11	ネイボーフッド・エキスポ (Neighborhood Expos)	福祉	5 以上
12	ノースアダムス市図書館 (North Adams Public Library)	行政	1
13	スティープルキャッツ大学生野球チーム (SteepleCats collegiate baseball team)	レジャー	5 以上
14	ウィリアムズタウン町 (Town of Williamstown)	行政	1
15	ウィリアムズ・カレッジ (Williams College)	教育	3
16	ウィリアムズタウン・フィルム・フェスティバル (Williamstown Film Festival)	文化	1
17	ウィリアムズタウン・シアターフェスティバル (Williamstown Theatre Festival)	文化	1

MASS MoCA と関係する各種団体とその種類 (“Network Analysis and the Social Impact of Cultural Arts Organizations”, C³D Report NA4. 2007, Table 6 より)



MASS MoCA のネットワーク図 (“Network Analysis and the Social Impact of Cultural Arts Organizations”, C³D Report NA4. 2007, Figure4 より)

上述 2 - (5) にあげられている MASS MoCA 運営パートナーとの連携・協力による各種プログラムの実施に加え、地元行政機関、大学、小学校、図書館との人的関係に基づく MASS MoCA を中心とした各種団体・施設の相互協力のネットワークが構築され、機能している。

(3) コミュニティの変化

MASS MoCA の開館によって、ノースアダムス市には先述のような経済効果をもたらされただけでなく、地元コミュニティにも変化が現れた。C³D により 2006 年に作成された報告書 “Mill Town, Factory Town, Cultural Economic Engine: North Adams in Context (ミル・タウン、ファクトリー・タウン、文化的経済エンジン：ノースアダムス市がたどった経過)” では、以下のように報告されている。

- ① MASS MoCA の開館をきっかけとして地域の歩道、公園、レクリエーション施設等の社会資本の改善が進み、「さびれた古い工場町」というノースアダムス市のイメージを払しょくし、住民の地域に対する誇り（プライド）を回復させた。

②MASS MoCA は、パークシャー観光と知識経済に参加していくために必要な人的・社会的資本を提供することにより、住民を少しずつ変化させていった。

③MASS MoCAは、現在進行形のコミュニティ向上の触媒として機能していることが、次のようなコミュニティの変化から示されている。

- ・新しい社会的・教育的機会が継続的にノースアダムス市に存在するようになり、古くからの住民と新しい住民、美術館訪問者との関係構築が進行していること。
- ・ノースアダムス市の子どもたちが現代社会の変化の激しい経済に対応していくためには、文化と技術の役割が重要であるということを、教育・美術関係者が強調するようになっていること。

2006年には、もう一つの報告書”Shifting Sands in Changing Communities: The Neighborhoods, Social Services, and Cultural Organization of North Adams, Massachusetts (変容するコミュニティの変遷—マサチューセッツ州ノースアダムス市における近隣地域、社会サービスと文化施設)”が作成されている。この報告書では、MASS MoCA という一つの文化施設だけで、ノースアダムス市のコミュニティ再生という大事業が可能となったわけではなく、MASS MoCA によってもたらされた経済状況の改善に加え、その他の多くの関係機関の努力の結果であると前置きしたのち、MASS MoCA の開館により地元コミュニティにもたらされた変化について、以下のようにとまとめられている。

①コミュニティの強化

MASS MoCA は、館が独自に主催する教育プログラムと、学校のための美術教育カリキュラムを開発することにより、ノースアダムス市の学校と緊密に連携し、学校、美術館双方での美術教育を可能とした。

教育に直接貢献することに加え、教育環境全般の向上に関する間接的な貢献も認められた。具体的には、MASS MoCA の開館以降、地域で大学進学を希望する人数が着実に増加するとともに、ノースアダムス市の住民の高等学校卒業資格保有者の割合が、近隣の街ピッツフィールド市¹⁷、マサチューセッツ州、合衆国全体の割合よりも高くなった。

ノースアダムス市は、MASS MoCA 開館以降も、住民の大規模な入れ替えが起こっていないことから、MASS MoCA の開館を契機に地域の人的資源の向上がもたらされたことが示されている。

経済効果の分析においては、美術館の支出が教育セクターに大きな影響を与えていることが確認された。MASS MoCA の 1,000 ドルの支出は、地域経済の中で再支出され、最終的には教育セクターにおける支出を 180 ドル増加させることにつながっている。教育セクターは、MASS MoCA による経済効果を最も享受している分野

¹⁷ 人口約 45,000 人のパークシャー・カウンティ最大の市。

の一つである¹⁸。

MASS MoCA は、地域の既存の行事に参加することによってもコミュニティの社会的安定性を高めることに貢献している。その一つの事例が、ノースアダムス市がコミュニティの各種団体代表（福祉団体、州・地方の政治団体代表、ビジネスリーダー、大学関係者等）の意見を聞く場として主催するネイボーフッド・エキスポ (Neighborhood Expo) に MASS MoCA が参加していることである。会議では、コミュニティに関係する様々な問題や懸念を話し合う分科会が開催され、すべてビデオテープに記録される。

MASS MoCA の開館を契機に、多くのアーティストがノースアダムス市を訪れ、そこに定住するようになった。しかし、アーティストがこの地に定住する理由は、MASS MoCA があるからではなく、風景、建物などノースアダムス市の街が持つ昔ながらの雰囲気、小規模なコミュニティが持つパーソナルな関係等である。アーティストにとって、地元コミュニティとの関係は重要であり、小規模なコミュニティならではの個人的なコネクションが芸術作品のPRや売りに非常に有益なのである。1990年代にノースアダムス市で起こったインターネットによる起業と芸術産業の成長の結果として、この2つの業種はノースアダムス市の住民によってより密接に関連するようになった。

②コミュニティ交流のための場の提供

MASS MoCA は、美術館としては直接関係のないプロジェクト等に対してそのスペースを会議等の場として提供することで、文化施設としての基本的役割をしのぐ、コミュニティが交流できる物理的空間の創出を可能にしている。コミュニティの向上に大きな影響を与えるプロジェクトについて、たとえ MASS MoCA がそのプロジェクトとは直接の関係を有しない場合であっても、しばしばそれに関する記者会見は MASS MoCA で開催されている。ここに、文化施設の公的空間が地域の社会構造機能の再構築において果たしうる役割をみることができる。この役割は、経済再生の役割に比べると漠然としたものであるが、ノースアダムス市ではそれが機能している。

③文化施設として地域で果たしうる役割の認識

過去 20 年の間に、文化施設への公的支援は劇的に減少した。この公的支援の削減に対し、文化施設は、各施設がその地域で果たすべき社会的・経済的役割を見極め、より理解し、政府、地方、個人からの支援を得るために、施設が果たしうる触媒的役割を説明していく必要があることを認識するようになった。

MASS MoCA がノースアダムス市の再建に果たした役割の検証は、文化施設が地

¹⁸ "Shifting Sands in Changing Communities: The Neighborhoods, Social Services, and Cultural Organization of North Adams, Massachusetts", C³D Report NA2.2006, p.25

域にもたらしうる経済的・社会的恩恵を示している。

MASS MoCA がノースアダムス市再生の牽引役となりえた背景には、ノースアダムス市を含むバークシャー・カウンティが持つ豊かな文化的環境を背景に、MASS MoCA 開館に至るまでに直面した危機的時期に、関係者が 21 世紀における文化施設の役割の変化を見極め、文化、コミュニケーション、技術の大きな変革にいち早く対応した新しい社会の需要を先取りした美術館構想をたてることに成功したことから始まったといえる。

既存の恵まれた文化的環境を生かし、MASS MoCA は多くの観光客とアーティストを惹きつけ、地元経済を活性化させるとともに、美術教育を中心とした教育レベルの向上や地元の小規模ビジネスの活性化などコミュニティの強化をノースアダムス市にもたらした。また、MASS MoCA は地域の文化教育施設の連携・協力を促すネットワークの中心的役割を果たし、地域の文化教育環境の向上に貢献しているのである。



ノースアダムス市

第2章 MASS MoCA と地域の大学との連携

MASS MoCA の誕生には、ウィリアムズ・カレッジ美術館 (WCMA) のスタッフの訪問がきっかけとなったことは前章でも述べたとおりである。ウィリアムズ・カレッジと、ノースアダムス市にあるマサチューセッツ・カレッジ・オブ・リベラルアートの2つの大学は、MASS MoCA との連携により、地域の活性化に貢献している。

この章では、この2つの大学が MASS MoCA とどのような協力関係にあり、具体的にどのような活動を行っているのかについて紹介する。

1 ウィリアムズ・カレッジとの連携

ウィリアムズ・カレッジ (Williams College) は、ノースアダムス市に隣接するウィリアムズタウン町にあり、1793年創設されたアメリカで最も歴史のある高等教育機関の一つである。学士課程在籍者は約2,000人で、国内でも屈指の名門私立のリベラルアーツ¹⁹・カレッジとして知られている。カレッジの図書館 (Chaplin Library) は、アメリカ独立宣言 (Declaration of Independence)、連合規約²⁰ (Article of Confederation)、アメリカ合衆国憲法 (The Constitution of the United States) 及び権利章典²¹ (Bill of Rights)、それぞれの最初のオリジナルコピーが一堂に展示されているアメリカ国内唯一の場所である。

MASS MoCA 館長のジョセフ・トンプソン氏によると、1986年の WCMA スタッフのノースアダムス市訪問の後、同カレッジ学長と理事会は、MASS MoCA プロジェクトが持つ文化的・経済的可能性を認識し、美術館スタッフにプロジェクトの計画を推進するよう奨励したとされている²²。MASS MoCA プロジェクトの最初のリーダーであったトマス・クレンス氏、クレンス氏の後を引き継いだ現在の MASS MoCA 館長であるトンプソン氏は、いずれも WCMA のスタッフであった。ウィリアムズ・カレッジは、最初の構想誕生時からずっと継続して MASS MoCA の重要な後ろ盾になっていたといえる。

前章でも述べたように、WCMA は MASS MoCA の運営パートナーである。MASS MoCA 館長トンプソン氏は、WCMA のアドバイザー・メンバーであり、WCMA 館長であるリサ・コリン (Lisa Corrin) 氏は MASS MoCA 財団理事を務めている。こういった人的なつながりに加え、具体的には以下のような事業が両者の協力により実現している。

¹⁹ 大学の学士課程における人文科学、自然科学、社会科学を包括する専門分野。

²⁰ アメリカ独立戦争において、13植民地の相互友好同盟を定めた規約。アメリカ最初の連邦憲法とも呼ばれている。

²¹ 1791年に成立したアメリカ合衆国憲法の修正条項。

²² *MASS MoCA: From Mill to Museum*, op.cit.,p.17

- MASS MoCA Kidspace の設置

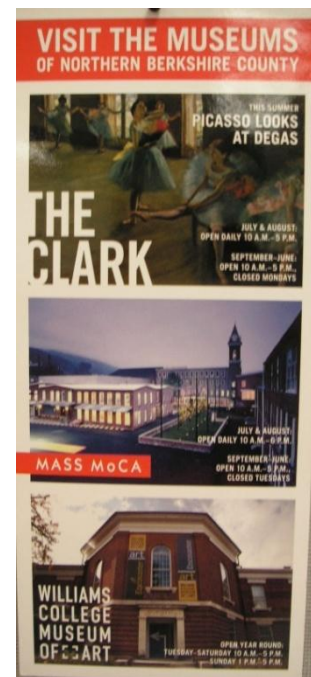
WCMA スタッフのアイデアにより、2000年1月、MASS MoCA内に地域の初等・中等教育課程にある子ども、教師等を主な対象とする現代アート展示・創作スペース兼教育プログラム Kidspace が誕生した。Kidspace は、MASS MoCA、WCMA、クラーク美術館の3者の協力により運営されている。2009年3月に、MASS MoCA2階のより広く新しいスタジオへ移転し、参加者は年間25,000人以上に倍増した。

- 長期展示 Sol Lewitt: A Wall Drawing Retrospective の設置

2008年、MASS MoCAとWCMAは、エール大学アートギャラリーとの協力の下、展示面積が2,500平方メートルに及ぶソル・ルウィット²³ (Sol Lewitt) の作品展示 Sol Lewitt: A Wall Drawing Retrospective を MASS MoCA にオープンした。この特別展示は、ソル・ルウィットが2007年4月に亡くなる前に、作家本人が作品展示のデザインをしたもので、2033年までの25年間にわたって MASS MoCA で展示されることとなっている。

- 美術館共同のPR

MASS MoCA、WCMA、クラーク美術館は、3館共同のPRリーフレット(右写真)を作成し、北バークシャー地方の美術館めぐりの中核となっている。



以上のようなWCMAとMASS MoCAという美術館同士の協力に加え、ウィリアムズ・カレッジとMASS MoCAとの連携・協力も継続されている。MASS MoCAの運営パートナーであるウィリアムズタウン・シアター・フェスティバルは、ウィリアムズ・カレッジのキャンパスを会場に毎年開催されている。さらにもう一つ注目されることは、同カレッジとMASS MoCAとの共同プロジェクトにより、芸術文化団体・施設が地域に与える経済的・社会的影響について調査・研究するセンター・フォー・クリエイティブ・コミュニティ・デヴェロプメント(Center for Creative Community Development / C³D)が設置されたことである²⁴。C³Dの所長は、ウィリアムズ・カレッジの経済学の教授が務めている。前章で紹介したように、C³DはMASS MoCAがノースアダムス市及び近隣地域にもたらした経済効果、社会の変化等について各種調査を実施し、報告書を作成している。このほか、ニューヨーク市の北約50マイル(約80km)にあるディア・ビーコン²⁵ (Dia

²³ Sol LeWitt (1928-2007) ミニマルアート、コンセプチュアルアートの分野で活躍したアメリカのアーティスト。ウォールドローイングの作品で有名。

²⁴ 2010年からはウィリアム・カレッジの一部局となり、MASS MoCAとの公的な関係はなくなっている。

²⁵ 1929年に建設された製菓会社ナビスコのパッケージ工場の建物を改修し、2003年に開館し

Beacon) など、アメリカ国内の他の美術館についても同様の調査を実施している²⁶。



ウィリアムズ・カレッジ美術館

2 マサチューセッツ・カレッジ・オブ・リベラルアーツとの連携

ノースアダムス市にあるマサチューセッツ・カレッジ・オブ・リベラルアーツ (Massachusetts College of Liberal Arts / MCLA) は、マサチューセッツ州立大学システムに属する学生数約 2,000 人のリベラルアーツ・カレッジで、バークシャー・カウンティ内で唯一の公立 4 年制大学である。

MCLA は、最近新たにアーツマネジメント分野の学士課程コースを開設したほか、MASS MoCA、ノースアダムス市と共同で、バークシャー・カウンティの芸術関係者、創作的な職業に従事する人たちに対して職業的な専門トレーニング、情報、支援を提供することを目的とする MCLA's Berkshire Cultural Resource Center (MCLA バークシャー文化資源センター/BCRC) を設置し、以下のような事業を行っている。

- MCLA Gallery 51 (MCLA ギャラリー51)

ノースアダムスの中心部メイン・ストリート 51 番地にある MCLA のギャラリー。MCLA の教員、学生を含め、国内外の優れたアーティストの作品を展示する。MCLA の学生が中心となって運営されている。

- B-HIP (The Berkshire Hill Internship Program / バークシャー・ヒル・インターンシップ・プログラム)

毎年夏に行われるアート分野の集中インターンシップコース。MASS MoCA をはじめとするバークシャー地方にある芸術文化施設でのインターンシップと MCLA のア

た現代アートの美術館。

²⁶ 詳細は <http://www.williams.edu/Economics/ArtsEcon/index.html>

ツマネジメント教員による講義が組み合わされて実施される。

- **MCLA Presents! (MCLA プレゼンツ!)**

ノースアダムス市内及び MCLA キャンパスを会場に、音楽、ダンス、演劇、朗読の優れた作品の公演を主催する。MCLA 学生や地元芸術家の優れた作品も紹介している。

- **Assets for Artists (アセット・フォー・アーティスト)**

住宅を所有したい、あるいは小規模経営者としての研修・支援を受けたいと希望するバークシャー・カウンティ内のアーティストに対する支援を行うプログラム。低所得の芸術家に対する財政的支援も可能。Berkshire Creative、MASS MoCA、ピッツフィールド市文化開発部 (Pittsfield Office of Cultural Development) との協力に下に実施されている。

- **Tickets of the Trade (チケット・オブ・ザ・トレード)**

アーティスト、創作者向けの実務的専門セミナーシリーズ。自分の作品をどう見せるか、どう説明するか、値段をいくりに設定するか等、職業としてのアーティストに必要な専門知識についてのセミナーを開催する。2010 年は、Berkshire Creative、ピッツフィールド市文化開発部、IS183 Art School²⁷ との協力に下に実施された。

- **DownStreet Art (ダウンストリート・アート)**

ノースアダムス市のダウンタウンの再活性化を目的として、街の中心部を会場に 6 月から 10 月の 4 か月にわたって開催されるパブリックアートのイベント。2008 年のスタート以来、5 万人以上の来訪者を迎えている。ノースアダムス市、マサチューセッツ文化協会 (Massachusetts Cultural Council)、MASS MoCA との協力により実施されている。

以上はすべて BCRC により実施される芸術文化関係の事業であるが、MCLA はこれら以外にも中等教育レベルでの数学・理科教育のレベルアップ、若者の大学進学率の向上と就職につながる技術の修得をめざす取り組み等を地域の行政機関、非営利団体、民間企業と協力して行っている²⁸。

²⁷ ストックブリッジ (Stockbridge) に 1991 年に創設された非営利のコミュニティ・アートスクール。年齢、表現方法、技術レベルを問わず住民に広く開放されている。

²⁸ 詳しくはウェブサイトを参照されたい。 http://www.mcla.edu/About_MCLA/Community/



ダウンストリート・アートに参加している美術館、ギャラリー（赤○）を示すノースアダムス市中心部のマップ

第3章 ノースアダムス市再生の事例から学べること

ここでは、前2章で取り上げた、ノースアダムス市再生における MASS MoCA と地元にある2大学が果たした役割の事例から、どのようなことが日本において参考になるのか考えてみたい。

1 文化教育施設・団体間の実質的な連携・協力の構築

(1) 設置者、所在する行政管轄区分を超えた協力・連携

ノースアダムス市が MASS MoCA の開館をきっかけとして地域再生を果たすことができたのは、ただ単に MASS MoCA が多くの観光客を地域に引き寄せ、観光客がもたらす経済効果の恩恵を受けたからというだけではない。MASS MoCA は、地域の文化教育施設・団体のネットワーク構築の中核となり、相互の連携・協力を促す「触媒」、「連合形成役 (coalition builder)」としても大きな役割を果たしており、実際に地域の文化教育施設・団体が、所在地、公立・私立等の違いを超えて相互に連携し、様々な行事・プログラムを実施していることが注目される。

MASS MoCA の運営パートナーとして挙げられている8団体の所在地はすべてノースアダムス市外にある。MASS MoCA、WCMA、クラーク美術館が共同の PR リーフレットを作成し、MASS MoCA Kidspace を共同で運営していることは先に紹介したが、MASS MoCA はノースアダムス市にある私立美術館²⁹ (入館有料)、WCMA はウィリアムズタウン町にある私立大学付属の美術館 (入館無料)、クラーク美術館はウィリアムズタウン町にある私立美術館 (入館有料) と、3美術館の性格はそれぞれ異なるものであり、MASS MoCA と WCMA、クラーク美術館は5マイル (約8km) 離れている。また、MASS MoCA、クラーク美術館、ストックブリッジにあるノーマン・ロックウェル美術館 (MASS MoCA から約55km 南に位置) は、それぞれ異なる自治体に所在しているが、他の2美術館とのセット入場券を販売している。

美術館同士の連携は、そこを訪れる人の循環をもたらし、人の循環によってより広い地域がその恩恵を受けるのである。

日本では、同じ活動分野の施設・団体であっても、設置者 (国立・公立・私立)、所在地や行政管轄区域の違いが連携の妨げになることが多い。また、一つの自治体の管理下にあっても教育文化施設同士が協力・連携して行事やプログラムを実施することはまだ少ないのではないだろうか。同じ県内、市内にある設置者が同じ施設・団体同士の協力・連携は言うまでもなく、設置者・行政区域の違いを超えた協力・連携を試みる価値があるのではないだろうか。

²⁹ MASS MoCA の建設には公費が投入されているが、開館後は独立した私立美術館として運営されている。ノースアダムス市から MASS MoCA への財政援助は行われていない。

(2) 実質的な協力・連携の構築

第1章で紹介した C³D による MASS MoCA のネットワーク分析は、人的なつながりによりそのネットワークの度合いを検討するものであった。日本においても、ある団体・施設のトップが、他の団体・施設の役員やアドバイザーになっていることはそれほど珍しいことではないであろう。しかし、MASS MoCA のケースで重要視されている「直接的人的関係」が、日本では団体・施設間の実際の協力関係にどの程度結びついているのかは疑問である。

日本でも、こういった人的つながりを、実際にその施設・団体間の協力関係の下に事業が実施されるような実質的な協力・連携関係につなげていくことができれば、各施設・団体の活動により広がりを持たせることが可能なのではないだろうか。

2 より自由な施設使用による人の交流空間の提供

C³D の報告書では、MASS MoCA が、美術館としては直接関係のない行事・イベントにその施設のスペースを提供することによって、コミュニティが交流できる物理的空間を創出していることの重要性が指摘されている。MASS MoCA は開館時から、広い商業テナント用スペースを備えており、このテナントスペースを利用した E コマース、コンピュータ・グラフィック、出版分野での小規模ビジネスが成功し、MASS MoCA に収入をもたらすことにつながっていると同時に、MASS MoCA が実施するプロジェクトに対して、通常では手の届かない技術と人的才能を提供してくれているとされている³⁰。

MASS MoCA は、アートの鑑賞という施設本来の目的でやってくる人のみならず、ただ出席する会議の会場が MASS MoCA であるためにやってきた人、安価なテナントスペースを提供してもらえからという理由でやってきた人など、来館目的は様々な人が物理的に集まり、交流できる空間を提供しているのである。

日本でも、公民館の会議室利用は一般的だが、美術館等の文化教育施設にある会議室やロビーといった施設・スペースも、もっと利用を自由にし、施設が実施する本来の事業とは直接関係のない分野の行事や会議の会場として使ってもらうことも有益なのではないだろうか。

MASS MoCA の成功は、目的が何であれ、その施設に人に実際に来てもらい、人と人が交流することで新しいアイデア、新しいビジネスなどが生まれる可能性があること、また、文化教育施設としてこういった交流空間を提供することの重要性・意義を示唆している。

³⁰ MASS MoCA: *From Mill to Museum*, (MASS MoCA Publications, 2000) , p.22

3 文化教育施設としての存在意義・地域で果たしうる役割の認識と公表

第2章で紹介したように、MASS MoCA がウィリアムズ・カレッジと共同で、C³D (Center for Creative Community Development) を設置し、自らがノースアダムス市の再生において果たしてきた役割を学術的に検証し、報告書にまとめて公表していることは注目に値する。

第1章で紹介した C³D の報告書の中で、文化団体・施設は、公的支援の削減に対抗して政府、地方、個人からの支援を得るために、自らが地域に果たすべき社会的・経済的役割を見極め、それをより理解し、施設・団体が果たしうる触媒的役割を説明していく必要性を認識することになったと説明されているが、MASS MoCA はそれを C³D を設置することで実践しているといえる。

公的支援の削減に直面しているのは、日本の文化教育施設・団体も同様である。より厳しさが増す財政状況の中で、これからも公金を運営の主要財源とし、かつ今後は企業、個人からの支援の獲得にも努力していく必要に迫られるであろう。文化教育の分野は、数字による目標数値の設定だけで評価するにはふさわしくない側面が多くある。しかし、そうかといって、国、県、市が設置したのだから公金の支援に全面的に頼るのは当然という認識は、これからはもう通用しなくなっていくであろう。

これら文化教育施設の利用増、入館者増を達成する方法として、著名人をゲストとするイベントや日本人に人気のある作家、作品の展示を行うという発想に直結しがちであるが、ノースアダムス市の地元各種団体と MASS MoCA のネットワーク構築の事例は、こうした集客方法以外にも、もっと施設・団体の身近にある地域の中に施設活用の潜在的ニーズがあるということを示唆しているのではないだろうか。集客力の高いプログラムの工夫とあわせて、各文化教育施設・団体が所在する地域にもっと目を向けることで、そこで果たしうる新しい役割、存在意義の発見につながっていく可能性がある。また、すでに日本でも各施設・団体が目標を設定し、その達成度を自己評価するという取り組みは始まっているところであるが、その成果をより積極的に公表していくことも重要なのではないだろうか。

4 大学と大学・大学と地域の他の文化教育施設・団体との連携の促進

本レポートでウィリアムズ・カレッジと MCLA の取り組みを紹介したのは、両大学がともに、ハーバード大学やケンブリッジ大学のように世界的にも有名で、巨額の資金をもつ大規模大学ではなく、学生数が 2,000 人程度の比較的小規模な大学であるからである。このような小規模な大学が、MASS MoCA とともにノースアダムス市の再生と周辺地域を含む地域の活性化に重要な役割を果たしてきていることは、日本の地方にある中小規模の大学にとって、大いに参考になる事例と思われる。

前章で紹介したこれら 2 大学と MASS MoCA との協力事業は、多くの場合、大学、

MASS MoCA に加え、他の地域の施設・団体も加わって協力して実施されている。

冒頭にも述べたように、近年、日本の大学でも地域連携、地域貢献は、教育・研究とならぶ大学の重要な使命として認識されてきている。ウィリアム・カレッジと MCLA の取り組みは、設置形態、行政管轄区分の違いを超え、大学と大学、大学と地域の他の文化教育施設・団体と協力・連携を構築していくことにより、よりよい地域貢献・地域連携を行っていくよい参考になるのではないだろうか。

MASS MoCA、ウィリアムズ・カレッジ、MCLA の協力と取り組みは、設置形態やそれぞれの本来の活動分野にかかわらず、地域の中での存在意義を改めて考え、相互に協力してその存在意義を向上させていくことによって、地域から必要とされる存在となり、それが「芸術」「教育」というそれぞれの本来分野での活動の活性化につながる、という好事例である。

日本でこういった環境をはぐくむためには、施設利用に関する法令関係の整備、運営者・設置者の意識の改革なども必要であろう。

5 地域資産の活用

最後に、ノースアダムス市の地域再生は、2つの地域資源の活用という観点からも注目される。ここでいう地域資源の一つは産業遺構である。第1章-2の脚注でも触れたが、MASS MoCA に改修された工場建物は、美術館に転用される以前から、内務省公立公園局が管理する National Register of Historic Site に登録されていた。19世紀に建設されたレンガ造りの歴史的建造物の多様性に富んだ空間が、現代アートの創作・展示スペースとして巧みに転換されている。また、MASS MoCA の開館から数年後、川向いにある、かつての工場労働者の宿舎であった建物が、レトロ調の洒落たホテル The Porches Inn に改装され、ノースアダムス市観光の人気の宿泊施設になっていることも先に触れた。MASS MoCA、The Porches Inn の2つは、いわゆる「ブラウンヤード」と呼ばれる産業遺構の再利用・活用の好事例であろう。

もう一つの地域資源は地元の大学が所有している美術作品である。MASS MoCA 誕生のきっかけは、ウィリアムズ・カレッジ美術館 (WCMA) が既存の展示スペースにおさまらない現代アート作品の展示スペースを探してノースアダムス市を訪問したことであった。MASS MoCA の初期の構想は、WCMA の収蔵作品の展示をベースに企画されたものであった。新たに展示する作品を購入するのではなく、すでに地域にあるものを中心に企画された美術館であったという点においても、MASS MoCA は地域資源の活用がうまく計画された事例といえるのではないだろうか。

おわりに

アメリカの社会では、「ネットワーキング」はキャリア形成、ビジネスの成功のカギを握る非常に重要な要素である。ソーシャルメディアを利用したネットワークづくりも非常に活発であるが、人と人が実際に会って話をする「ネットワーキング」はそれに劣らず重要で、ネットワークづくりのための各種レセプションが頻繁に開催される。そこで、参加者はグラス1杯の飲み物だけで、1時間、2時間、延々と話を続けるのである。

MASS MoCA がノースアダムスの再生に果たした役割をつきつめていくと、優れた現代アート美術館として多くの来館者を呼び、それが地域に直接的な経済効果をもたらしたことに加え、MASS MoCA がただ単に優れた現代アート作品が展示されている場所であるだけでなく、人と人、組織と人、組織と組織をつなぐネットワークを形成し、それを実動させる原動力、「触媒」としても機能していることとも言える。そして、地域の大学であるウィリアム・カレッジと MCLA もまた、MASS MoCA をはじめとする各種団体・施設、行政機関とのネットワークを構築して地域の教育、次世代の人材育成に貢献しているのである。

日本の美術館をはじめとする文化教育施設・団体や大学も、美術館は「美術鑑賞をしたい人が行くところ」、大学は「大学生と先生が勉強と研究をするところ」という既成のイメージを変え、より多くの人に実際にその施設、キャンパスへ来てもらう工夫をし、交流する場所を提供することで、公民館とはまた違った地域のネットワークづくりの「触媒」としての役割が果たせるのではないだろうか。

その前提としては、文化教育施設・団体、大学がそれぞれ優秀な人材を確保し、本来業務の分野で優れた事業を実施できる能力が必要であることは言うまでもない。

先にもふれたように、MASS MoCA は、建設には公費が投入されたものの、開館後は私立の美術館として運営されている。MASS MoCA のスタッフに、ノースアダムス市との関係について尋ねたところ、市からの財政的な支援は受けていないが、「ノースアダムスをよくしていくためのパートナーである」との回答があった。

アメリカと日本では、文化政策や寄附制度などに大きな違いがあるため、アメリカの成功パターンがそのまま日本で通用するわけではないであろう。しかし、上述のような、行政・私的団体であるかを問わず、地域をよくしていくための「パートナー」という認識は、設置形態を超えた連携・協力を構築していくうえで非常に重要なものと考えられる。

本レポートでは、具体的な財源確保の方策等についてはとりあげていないが、ここで紹介した事例が、日本の美術館等の教育文化施設の事業展開、大学の地域貢献・地域連携の方向性を考える上での、一つの参考になれば幸いである。

参考文献・ウェブサイト

1 参考文献

Massachusetts College of Liberal Arts, “*A Vision of Excellence: MCLA’s Strategic Plan*”

Oehler, Kay; Stephen C. Sheppard, Blair Benjamin, “*Mill Town, Factory Town, Cultural Economic Engine: North Adams in Context*”, C³D Report NA1, 2006

_____ , “*Shifting Sands in Changing Communities: The Neighborhood of North Adams, Massachusetts*”, C³D Report NA2, 2006

Oehler, Kay; Stephen C. Sheppard, Blair Benjamin, Laurence K. Dworkin, “*Network Analysis and the Social Impact of Cultural Arts Organizations*”, C³D Report NA4, 2007

Rudd, Eric; *A Portrait of the Northern Berkshires*, Cire Corporation, 2008

Sheppard, Stephen C.; Kay Oehler, Blair Benjamin, Ari Kessler, “*Culture and Revitalization: The Economic Effects of MASS MoCA on its Community*”, C³D Report NA3, 2006

Thompson, Joseph; Simon Bruner, John Heon, *MASS MoCA: From Mill to Museum*, MASS MoCA Publications, 2000

Williams College Museum of Art, “*Williams College Museum of Art Annual Report Fiscal Year 2009*”

2 ウェブサイト

Center for Creative Community Development (C³D)

<http://web.williams.edu/Economics/ArtsEcon/index.html>

City of North Adams <http://www.northadams-ma.gov/>

Massachusetts College of Liberal Arts <http://www.mcla.edu/>

Massachusetts Museum of Contemporary Art <http://www.massmoca.org/>

Williams College <http://www.williams.edu/>

Williams College Museum of Art <http://wcma.williams.edu/>

【執筆者】

財団法人自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 河村 千鶴子